

第3章 良好な景観形成に関する方針

1. 景観づくりの基本的な考え方

本市の景観は、時間をかけて積み重ねられてきた、かけがえのないものであることから、今後も守り、活かした景観づくりを進め、次世代に伝えていく必要があります。

また、自然・歴史・文化的景観のほか、北関東自動車道や国道などの広域的な道路網が整備され、多くの企業が操業する工業団地や土地区画整理事業による良好な住宅地、公共施設や商業施設が集積する中心市街地には都市的景観が形成されており、これらの都市的景観と自然景観及び歴史・文化的景観が調和し、バランスのとれた景観づくりを目指すため、市民・事業者・行政が協働していくことが重要となります。

以上を踏まえて、市民・事業者・行政が共有すべき基本理念を次のとおり設定します。
また、基本理念の実現に向けて、4つの景観形成のキーワードを設定します。

景観づくりの基本理念

多様な営みが織りなす
真岡の特徴を活かした景観づくり



景観形成のキーワード

2. 景観形成の基本的な方針

景観づくりの基本理念や景観形成のキーワードを踏まえ、次のとおり景観形成の基本方針を設定し、景観づくりに取り組みます。

基本方針1

磨く

真岡らしさを活かした景観を磨く

真岡らしさを特徴づける景観としては、蒸気機関車（SL）の走る姿や真岡駅舎・SLキューロク館、春には桜が咲き誇る城山公園周辺、真岡の夏まつり「荒神祭」等の祭りや伝統行事があげられます。

そのほか、真岡駅や市役所周辺、久下田駅周辺の中心市街地、真岡インターチェンジ周辺等は、本市の顔となる空間としてあげられます。

これらの真岡らしさを特徴づける景観を磨き上げるとともに、都市の顔となる空間を整え、魅力の向上を図ります。



蒸気機関車（SL）



城山公園



真岡の夏まつり「荒神祭」



真岡市役所周辺

基本方針 2
守る

受け継いできた自然や歴史景観を保全し継承する

長い年月をかけて積み重ねられてきた景観は、本市の景観の基調をなしている地形や緑、水辺といった自然環境とともに、それらの眺望景観があげられます。

また、高田山専修寺や大前神社等の寺社、岡部記念館「金鈴荘」や真岡市久保講堂、長屋門等の歴史的建造物、桜町陣屋跡等の史跡があげられます。

これらの先人から受け継いだ豊かな自然環境や固有の歴史・文化を尊重し、次世代に継承していきます。



自然豊かな田園景観と八溝山地



小貝川



高田山専修寺



岡部記念館「金鈴荘」

基本方針3
創る

周辺環境と調和した都市景観を創る

日常生活の中で形成される景観としては、居住の場である住宅地、市民の日常生活に必要な商業地、産業拠点となる工業地があげられます。

また、市民や来訪者が日常的に利用する道路や鉄道の景観もあげられます。

これらの景観は、生活の中で欠かすことのできない空間として、周辺環境と調和した都市景観を創出します。



居住環境が整備された住宅地
(長田地区)



商業地 (台町地区)



周辺環境に配慮した工業地
(真岡第四工業団地)



緑豊かな幹線道路
(下高間木地区)

良好な景観づくりには、市民・事業者・行政が景観に対して興味や関心を持つとともに、継続的な景観形成の取組が不可欠であることから、景観に関する意識の醸成やマナーの向上を図っていきます。

また、市民への景観づくりの意義の周知による意欲の向上に合わせて、個々の活動を支援するとともに、全市的な景観づくりとして推進していくために、本市の実情に合わせたルールづくりや仕組みづくりにより、継続的に景観づくりを進めます。



鬼怒川クリーン大作戦



景観講演会



緑化活動



真岡鐵道愛護活動

3. 景観構造別の景観形成の方向性

本市の景観構造は、地形の特徴や土地利用の状況、真岡市都市計画マスタープランの将来都市構造図に基づき、景観を構成するゾーン（面）、軸（線）、拠点（点）の3つの要素から設定します。

土地利用や景観の面的広がりを示す「ゾーン」は、「中心市街地景観ゾーン」「市街地景観ゾーン」「工業地景観ゾーン」「田園景観ゾーン」「自然景観ゾーン」という5つのゾーンに区分し、それぞれに景観形成の方向性を定めます。

主要な道路や鉄道、河川は、各ゾーンを結ぶ視点場であるとともに、複合的に景観の構成に係わることから、ゾーンとは別に「交通景観軸」「河川景観軸」という2つの軸に区分し、個別に景観形成の方向性を定めます。

観光交流の拠点となる施設は、地域のシンボルとして周辺の景観に対し影響が大きいことから、点的景観として景観形成の方向性を定めます。

(1) 面的景観

中心市街地景観ゾーン

多様な都市機能や多数の歴史・文化的景観資源が集約している真岡駅周辺や久下田駅周辺の区域

- 真岡駅や駅前地区周辺の中心市街地は、真岡駅や市庁舎、商業・業務施設等の都市機能が集積するとともに、岡部記念館「金鈴荘」や久保記念観光文化交流館、SLキューロク館等の観光資源を数多く有する地域であり、また、久下田駅周辺は、二宮地区の中心として、都市機能が集約された区域です。
- 都市機能が集中する中心市街地は、街並みと調和した沿道整備等のリノベーションや無電柱化を推進し、賑わいのある魅力的な景観形成を図ります。
- 鉄道玄関口である駅周辺や新庁舎周辺、観光拠点等は、都市の顔にふさわしい都市的景観と歴史的景観が調和した良好な景観形成を図ります。
- 商業施設等は、賑わいや歴史との調和を感じる景観形成を図ります。

市街地景観ゾーン

中心市街地景観ゾーン及び工業地景観ゾーンを除く市街化区域、高田新町地区

- 積極的な土地区画整理事業の展開による都市基盤の整備や、地区計画の活用、緑化の推進等により、閑静な街並みが形成されています。
- 市街地においては、沿道や敷地内の緑化、地区計画の活用等により、うるおいと落ち着きのある住宅地景観の形成を図ります。
- 民間による宅地開発においては、統一感のある住宅地景観の形成を図ります。
- 幹線道路の沿道は、建築物や屋外広告物等の規模や配置、色彩等に配慮し、秩序と魅力のある景観形成を図ります。

工業地景観ゾーン

工業専用地域及び一部地区計画区域

- 真岡第一から真岡第五工業団地、大和田産業団地、真岡商工タウンにおいては、約110社が操業し、周辺の田園や自然環境と調和した工業地域が形成されています。
- 工業団地などの工業地においては、色彩等に配慮し、市街地や田園風景と調和した景観形成を図ります。
- 緑地の配置により、自然が感じられる景観形成を図ります。

田園景観ゾーン

緑豊かな広がりのある風景の基調となっている田園と集落地や屋敷林等によって形成されている区域

- 広がりのある農地や平地林が織りなす田園風景は、本市を特徴づける景観の一つとなっています。
- 田園に囲まれた集落においては、長屋門などの歴史を感じる建造物を保全するとともに、周辺環境や田園風景、集落地、山並みなどとの調和を図り、デザインや色彩、緑化等に配慮しつつ、農村の良好な景観形成を図ります。
- 河川や用水などを身近な水辺空間として保全・活用し、田園の良好な景観形成を図ります。
- 集落の連続性や大規模な開発行為の影響に配慮し、良好な田園景観の保全を図ります。

自然景観ゾーン

市南東部の根本山緑地環境保全地域を含む丘陵地

- 根本山をはじめとする緑地環境保全地域においては、山林や自然が一体となった景観が形成されています。
- 丘陵地に囲まれた集落においては、周辺環境や山林等の自然との調和を図り、デザインや色彩、緑化等に配慮しつつ、自然環境の良好な景観形成を図ります。
- 大規模な開発行為は最小限にとどめ、良好な緑地環境の保全を図ります。

(2) 線的景観

交通景観軸

[道路] 北関東自動車道、国道 408 号鬼怒テクノ通り、国道 121 号、国道 294 号、国道 408 号、主要地方道真岡上三川線、主要地方道宇都宮真岡線、都市計画道路亀山八木岡線、都市計画道路中郷八木岡線等の主要幹線道路
[鉄道] 真岡鐵道

- 北関東自動車道や国道 408 号鬼怒テクノ通りが交差する交通の要衝として、また、SL の走るまちなど、道路や沿道の景観が形成されています。
- 国道や主要地方道等の幹線道路沿線は、街路樹の植栽や景観に配慮した適切な維持管理、無電柱化などの道路整備の推進により、良好な道路景観の形成を図ります。
- 真岡鐵道沿線は、建築物や田園風景などに配慮しつつ、SL を活かした地域の活性化などによる良好な沿線景観の形成を図ります。

河川景観軸

鬼怒川、小貝川、五行川、江川、大久保川、行屋川

- 市を縦断する鬼怒川や小貝川の流域には肥沃な農地が広がるとともに、市街地を流れる五行川と行屋川では歩道等が整備され、良好な河川の景観が形成されています。
- 河川敷の清掃活動のほか、マナー向上の促進によるごみのポイ捨てやペットのふん害を防止し、良好な河川景観の維持保全を図ります。
- 橋梁の意匠などに配慮し、魅力的な河川景観の保全を図ります。

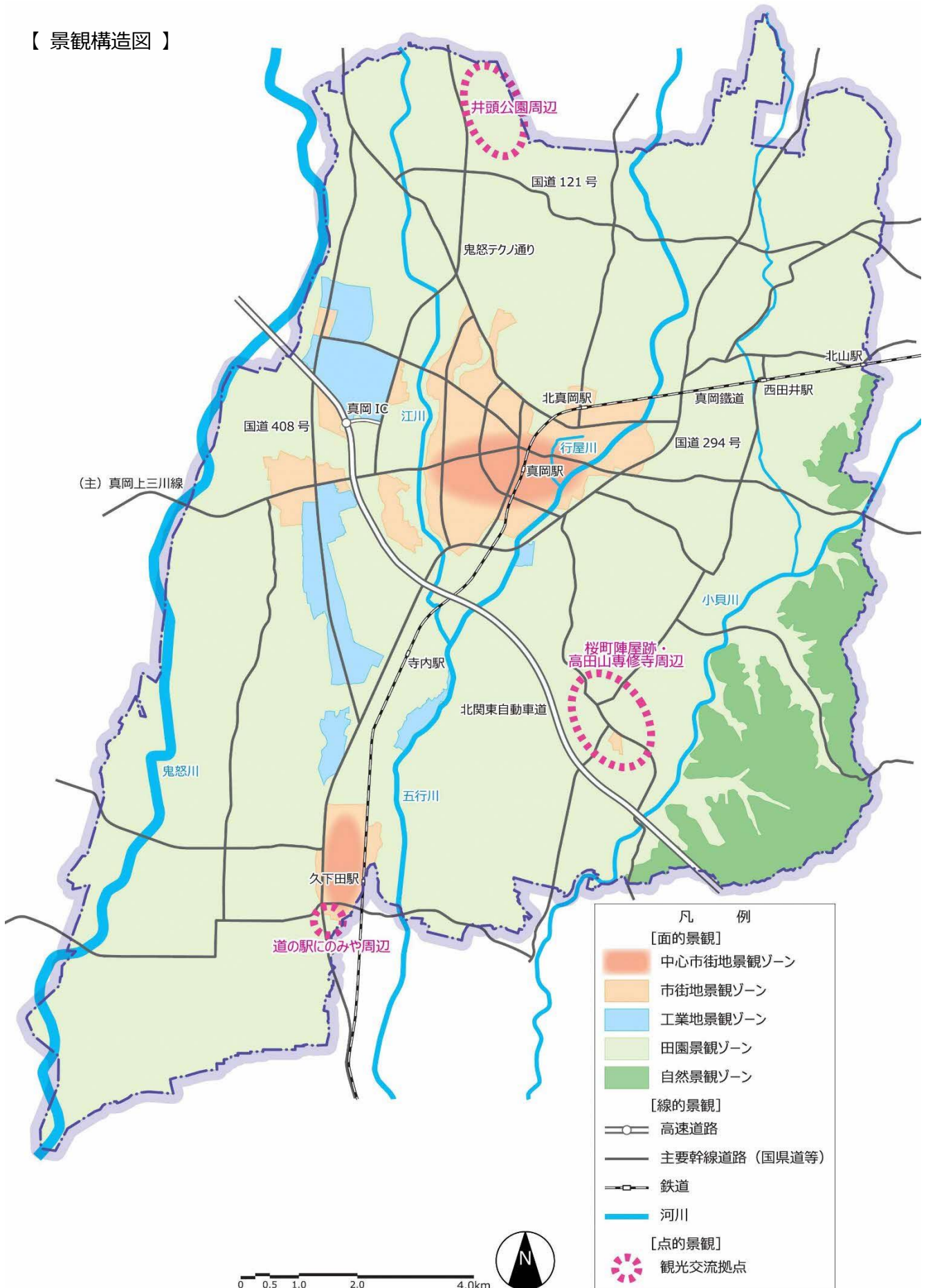
(3) 点的景観

観光交流拠点

井頭公園周辺、桜町陣屋跡・高田山専修寺周辺、道の駅にのみや周辺

- 北玄関口には栃木県の都市公園を代表する井頭公園が、南玄関口には道の駅にのみやの観光拠点が整備され、また、桜町陣屋跡や高田山専修寺など歴史的景観資源が周辺と一体となった景観を形成しています。
- 井頭公園周辺は、北の観光交流拠点として、隣接する「真岡井頭温泉」や「いちごチャットパレス」、「あぐりっ娘」等を含めた一体的な景観形成を検討し、魅力的な拠点空間の形成を図ります。
- 桜町陣屋跡や高田山専修寺周辺は、歴史的建造物や史跡の維持保全とともに、地域の歴史・文化に配慮し、歴史・文化的な景観形成などを検討した拠点空間の形成を図ります。
- 道の駅にのみや周辺は、南からの玄関口となる観光交流拠点として、道の駅施設の賑わい機能の向上や適切な維持管理とともに、景観形成に配慮することで、更なる賑わいの拠点空間の形成を図ります。

【 景観構造図 】



0 0.5 1.0 2.0 4.0km

